

# 1年道徳通信

第25号

## 第25回『異文化の人々と共に生きる』



第25回目の道徳では、日本人と外国の人との間に生じたギャップを巡る事例を通して、異文化に属する人どうしが共生していくために大切なことについて考えました。フランスの学校に通う雅史が、フランス風にアレンジされた寿司を「おもしろいね」と言ったところ、その見方に賛成する生徒と反対する生徒に別れて議論が始まってしまい、驚く雅史。日本では、意見の対立を避ける傾向がありますが、フランスでは、はっきりと意見の違いを述べるのが好まれるのです。洋子の住んでいる集合住宅で、外国人の住民たちがよくパーティーを開いて大声で話したり、ごみの分別をしなかったりと、日本人の住民と対立するようになりました。文化的な価値観が違うために起こった問題で、それぞれに言い分があるので、どうすれば解決できるのか、洋子は悩みます。

### みんなの意見

異なる文化をもつ人々と共に生きていくために、大切なことは何でしょう。

- 外国人は自分達とのルールや考え方が違うし、これから外国人が増えていく中で、日本のルールなどで押さえつけるのではなく、意見を聞いてお互いに譲り合うこと。
- 人々は文化を大切に生きているけど、国ごとに文化の違いがあるのは分かっていると思うし、しっかり把握すべきだと思う。相手の文化を理解して、自分達の文化も尊重するのが大事だと思う。
- お互いの価値観や文化を理解し合う。(相手を知る＝異文化理解)
- 互いの文化を認め合って、そしてどうすれば一緒に生活できるか考える。
- お互いの文化を取り入れて、お互いが納得いくようなオリジナル文化を作ること。
- 文化が違って、自分の文化や外国の文化を知ってもらったり、知ろうとしたりしていくのが大切だと思う。

**多文化共生社会に生きる私たちに**

**できることは何だろう？**